平成31年度 道路・河川工事仕様書 北海道開発局独自 新旧対比表

. 行 北海道開発局独自

道路区画線は、半径の小さな曲線部や交差点付近で摩耗の著しい区間、土砂の散逸が著しい区間及び他の工事や天災などによる破損の場合以外は、道路中心線又は外側線についてスパイクタイヤ及びタイヤチェーンの着装時期までその効果が失わない耐久性を有しているものとする。

現

2-2-12-3 区画線工(水性型ペイント)

1. 材料

(1) 区画線塗料

区画線として使用する水性型ペイントは、次の規格に適合しなければならない。

水性型ペイント						
		加熱式	JIS K 5665 2種に準拠	路面標示用塗料	溶媒として揮発性有機化合物を5%(質量)以上含まず、水を使用するもの。	
k性逾料材料规定	Ė					
項	i i	1種 (常温)			2種 (加熱)	
写器の中での状態	®.		7	かき混ぜたとき、堅し	・塊がなくて一様になること。	
治度 (23℃) g/c	m3				1. 3以上	
站度 (KU値)			70~100		90~130	
加熱安定性			_		"容器の中での状態"を満足して、KU値が141以下であること。	
金膜の外観				塗膜の外観	が正常であること。	
タイヤ付着性 15分後に塗膜がタイキ		5分後に途膜がタイヤに付着	rに付着しないこと。 10分後に塗膜がタイヤに付着しない、			
闘べい事 %	白	97以上		97以上		
S . 1 1 1 20	黄	80以上			80以上	
見感反射率(拡制 料) (白に限る)					80以上	
にじみ	白	アスファルトフェルト上の塗面の視感反射率が70以上であり、視感反射率比が0.90以上であること。				
	黄	視感反射率比が0.90以上であること。				
耐摩耗性 (100回転について) mg			500EAF			
耐水性 水に浸したとき異常がないこと。						
耐アルカリ性				アルカリに浸し	たとき異常がないこと。	

(2) ガラスビーズ

ガラスビーズは、JIS R 3301 号の規定に適合したものでなければならない。

2. 使用量

加熱残分。

ペイント及びビーズの使用量は、1,000m 当たり次に示す量以下であってはならない。

ガラスビーズが塗膜にむらなく付着するこ

型式	幅	ペイント量	ガラスビーズ量	摘要
常温	15cm	4512	37kg	
	15cm	62 17	56kg	
加熱	20cm	8212	75kg	
加索符	25cm	103%	93kg	
	45cm	186%	168kg	

3. 施工

- 1) 受注者は、水性型ペイントの施工について設置路面の水分、泥、砂じん、ほこりを 取り除き均一に接着するようにしなければならない。
- 2) 受注者は、水性型ペイントの施工に先立ち、施工箇所、施工方法、施工種類について監督職員の指示を受けるとともに、所轄警察署とも打合せを行い、交通渋滞をき

改 定 適 用

北海道開発局独自

道路区画線は、半径の小さな曲線部や交差点付近で摩耗の著しい区間、土砂の散逸が著しい区間及び他の工事や天災などによる破損の場合以外は、道路中心線又は外側線についてスパイクタイヤ及びタイヤチェーンの着装時期までその効果が失わない耐久性を有しているものとする。

2-2-12-3 区画線工(水性型ペイント)

1. 材料

(1) 区画線塗料

区画線として使用する水性型ペイントは、次の規格に適合しなければならない。

項目		適用すべき基準		規格
				溶媒として揮発性有機化合物を5%(質量)以上含まず、水を使用するもの。
水性型ペイント	加熱式	JIS K 5665 2種に準拠	路面標示用塗料	溶媒として揮発性有機化合物を5%(質量)以上含まず、水を使用するもの。

水性塗料材料規定 1種(常温) 2種(加熱) 項目 容器の中での状態 かき混ぜたとき、堅い塊がなくて一様になること。 密度(23℃)g/cm3 粘度(KU値) '容器の中での状態"を満足して、KU値が141以 加熱安定性 であること。 途膜の外観 途膜の外観が正常であること 15分後に塗膜がタイヤに付着しないこと。 10分後に塗膜がタイヤに付着しないこと。 タイヤ付着性 隠ぺい率 % 視感反射率(拡散反射 80以上 アスファルトフェルト上の塗面の視感反射率が70以上であり、視感反射率比が0.90以上であること。 こじみ 視感反射率比が0.90以上であること 耐摩耗性 500以下 (100回転について)m 水に浸したとき異常がないこと。 耐水性 耐アルカリ性 アルカリに浸したとき異常がないこと 加熱残分% 60EL F カラスビーズ付着性 ガラスビーズが塗膜にむらなく付着すること。 カラスピーズ固差率 % 途膜中の鉛の定量 (黄色に限る)% O OBELT 塗膜中のクロムの定量 (黄色に限る)% 0.03以下

(2) ガラスビーズ

ガラスビーズは、JIS R 3301 号の規定に適合したものでなければならない。

2. 使用量

ペイント及びビーズの使用量は、1,000m当たり次に示す量以下であってはならない。

型式	単 菌	ペイント量	カフムヒー人重	摘安
常温	15cm	45%%	37kg	
	15cm	62 1 %	56kg	
加熱	20cm	8217	75kg	
加森德	25cm	103%	93kg	
	45cm	186%	168kg	

小文字を大文字に修正。

H30.8.20の「JIS K 5665」改正に伴い、 黄色塗料に鉛及びクロムの規定を追加。

3 - 47

平成31年度 道路・河川工事仕様書 北海道開発局独自 新旧対比表

一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一	利印为凡衣	
現行	改定	適用
北海道開発局独自	北海道開発局独自	
AB 44 - TO - 11 11	AL 44 - 11 - 11	
第 11 章 共同溝	第 11 章 共同溝	
第6節 現場打構築工	第6節 現場打構築工	
10-11-1-6-2 現場打躯体工	10-11-1-6-2 現場打躯体工	
3. 受注者は、足場の施工にあたって、足場の沈下、滑動を防止するとともに継手の 緊結方法に注意して組立なければならない。	3. 受注者は、足場の施工にあたって、足場の沈下、滑動を防止するとともに継手の 緊結方法に注意して組立なければならない。	
New York Control of the Control of t	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
第 14 章 道路維持	第 14 章 道路維持	
<u>第 25 節</u> 災害応急処理	<u>第 25 節</u> 災害応急処理	
10-14-25-1 災害対策	10-14-25-1 災害対策	
1. 受注者は、施工計画書に災害発生時の対策に関する事項を記載し提出しなければ	1. 受注者は、施工計画書に災害発生時の対策に関する事項を記載し提出しなければ	
ならない。また、災害が発生した場合の処置については、監督職員の指示によらな ければならない。	ならない。また、災害が発生した場合の処置については、監督職員の指示によらな ければならない。	
2. 受注者は、応急処理作業を行うにあたっては、箇所毎に着工前、完成後、作業日	2. 受注者は、応急処理作業を行うにあたっては、箇所毎に着工前、完成後、作業日	
時、場所等を記載し、写真撮影を行わなければならない。	時、場所等を記載し、写真撮影を行わなければならない。	
3. 受注者は、 <u>土砂等の撤去</u> を行うにあたっては、 <u>路面及び構造物</u> に損傷を与えない	3. 受注者は、 <mark>応急処理作業</mark> を行うにあたっては、 <mark>道路及び周辺の施設</mark> に損傷を与え	作業内容に汎用性を持たせる為、文言 を修正。
よう現場の状況に応じた施工をしなければならない。	ないよう現場の状況に応じた施工をしなければならない。	2 1940
2 107	3 - 107	
3 - 107	0 101	